山形県の古木・名木 No.89

元諏訪神社のハルニレ群

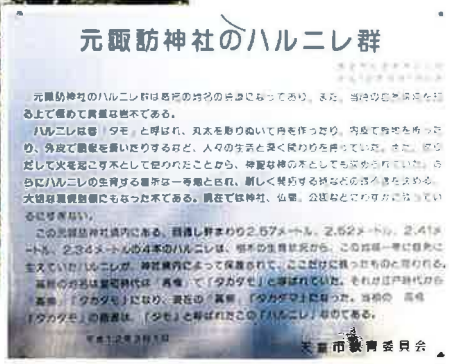
（もとすわじんじゃのはるにれぐん）

天童市東芳賀二丁目5

（案内略図）

ハルニレは、昔「タモ」と呼ばれ、丸太を彫りぬいて舟を作ったり、内皮で織物を織ったり、外皮で屋根を葺いたりするなど、人々の生活と深く関りを持っていた。また、擦りだして火を起こす木として使われたことから、神聖な神の木としても崇められていた。さらにハルニレの生育する場所は一等地とされ、新しく開拓する時などの大切な環境指標となった木である。

この元諏訪神社境内にある目通し幹回り2.57m、2.52m、2.41m、2.34mの四本のハルニレは、樹木の生育状況から、この地域一帯に自然に生えていたハルニレが、神社境内によって保護されて、ここだけに残ったものと思われ、平成10年９月１日に市指定天然記念物に指定されている。〔山形県森林協会〕



【森林やまがた114号（2008年３月）記載】